

プレスリリース

無人機飛行技術に関する共同開発契約締結

株式会社ゼノクロス（本社：鹿児島県鹿児島市、代表取締役社長：米山兼二郎）と、PDエアロスペース株式会社（本社：愛知県名古屋市長、代表取締役社長：緒川修治）は、3月31日、無人機の飛行技術に関する共同開発契約を締結しました。

無人飛行技術は、予め地図上に通過ポイント(飛行ルート)を設定して、機体の飛行安定制御をしつつ、GPSを用いて飛行ルートからのずれを補正する“自律飛行技術”が各所で研究されていますが、別の方式として、機載カメラを用いて搭乗者視点による映像を地上のモニタに映し出す(*1)と同時に、飛行中の機体の姿勢や速度、高度などの飛行データを機載カメラの動画に合成し(*2)、あたかもパイロットが“操縦している感覚”で無人機を飛行させる“遠隔操縦技術”があります。

空撮や農薬散布など予め決められた任務の場合、“自律飛行”でも遂行可能ですが、災害状況把握や遭難探索など、現場の状況変化に随時対応させるような、より複雑な任務への適用には、“遠隔操縦”が期待されま

*1：FPV (First Person View)

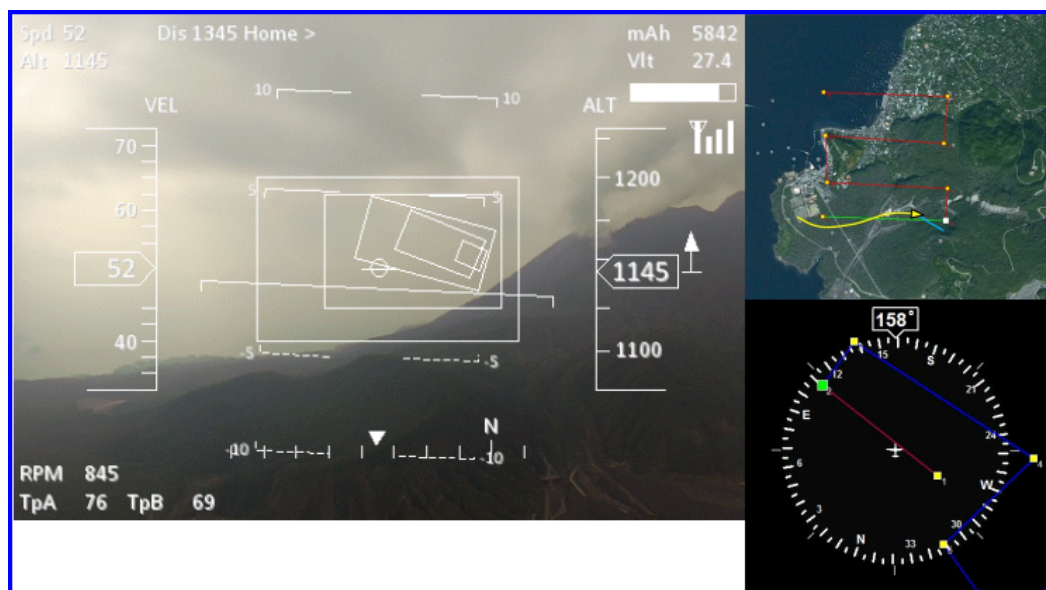
*2：OSD (On-Screen Display)

ゼノクロスは、2005年、九州大学 東野准教授と連携し、無人機用飛行制御装置として、「AP-CUB」を製品化しました。また、ラジコンヘリ、およびラジコンパラグライダーによる被災地空撮も行っています。

PDエアロスペースは、宇宙機の要素技術開発を無人飛行実験機にて行っています。無人機は、微小重力実験のほか、多目的観測機として運用を予定しています。高高度、高速の飛行実験機会を提供していきます。

両社は、無人機/UAVのより多様な運用に寄与するため、無人機飛行技術、特にFPV、OSD製品の開発に協力していきます。

以上



モニタ表示イメージ

【関連ページ】

ゼノクロス HP <http://uav.xenocross.net/index.html>

PDエアロスペース HP <http://www.pdas.co.jp/>